

2016.12.19 No.3



えんしゅうびょういん 情報紙



お薬と牛乳アレルギーの関係

担当：薬剤科

<はじめに>

食物アレルギーの中でも小児を中心に頻度の高い牛乳アレルギーですが、お薬の中にも牛乳アレルギーを起こすものがあることをご存知ですか？

今回は意外と知られていないお薬と牛乳アレルギーの関係についてご紹介します。

<牛乳アレルギーの症状>

牛乳アレルギーは、牛乳に含まれるタンパク質(カゼイン等)を体が異物と判断し、過剰な反応を示すことで引き起こされます。症状としては以下に示すようなものが見られます。このうち、じんましんなどの皮膚症状が最も高い頻度で起こります。

- ・皮膚症状 …… じんましん、湿疹、かゆみ
- ・粘膜症状 …… 目が赤くなる、くしゃみや鼻水
- ・消化器症状 …… 下痢、腹痛、嘔吐
- ・ショック …… 血圧低下、意識消失、動悸



<インフルエンザ治療薬と牛乳アレルギー>

インフルエンザ治療薬のうち「イナビル」と「リレンザ」は吸入式のお薬であり、添加物として乳糖が加えられています。この乳糖には牛乳由来のタンパク質が含まれており、これによりアレルギー症状が起こる可能性があります。

実際これらのお薬に含まれる乳タンパクは極微量であるため、牛乳アレルギーの方でも発作が起こることはほぼありません。しかし、稀に少量の乳タンパクからでも激しいアレルギー症状が起こってしまうこともあるため、注意は必要です。

<その他の牛乳アレルギーを引き起こすお薬>

インフルエンザ治療薬のように、添加物や培養過程に乳タンパクが含まれており牛乳アレルギーを起こす可能性のあるお薬は他にもいくつかあります。
以下にその一部をご紹介します。

・タンニン酸アルブミン、タンナルビン

下痢を止めるお薬。

成分としてカゼインという牛乳に由来するたん白質が配合されています。

・エンシュアリキッド

・エンシュア H

・ラコール配合経腸液

食事摂取が困難な場合の栄養補給に使用されるお薬。

成分としてカゼインが配合されています。



その他、乳酸菌製剤に製造過程で脱脂粉乳が添加されている薬品もあります。

<おわりに>

上記のお薬を服用したからといって、必ずしもアレルギー症状がでるとは限りません。しかし、安全にお薬をお使いいただくためにも、アレルギーを起こしたことがある場合は必ず医師や薬剤師にお伝えください。



***取り上げて欲しい病気や検査、質問等がありましたら、投書箱やよろず相談窓口までお気軽に声をかけてください。企画の参考にさせていただきます。**

【監修:ふれあい編集事務局】